



2023年8月29日

各 位

会 社 名 株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス
代表者名 代表取締役CEO 吉村 元久
(コード：2884、東証プライム)
問合せ先 取 締 役CFO 安東 俊
(TEL. 03-6206-1271)

株式会社ワイエスフーズの株式取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、2023年8月29日開催の取締役会において、以下のとおり、株式会社ワイエスフーズ（以下、「ワイエスフーズ」といいます。）の発行済株式70%を取得し、子会社化することについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 当社について

当社は、食品の製造及び販売をおこなう中小企業の支援・活性化を目的とし、後継者不在や単独での成長に限界を感じている企業の株式を譲り受けるとともに、持株会社としてグループ全社の経営戦略の立案・実行及び経営管理をおこなっています。各子会社に対しては、セールス・マーケティング、生産管理、購買・物流、商品開発、品質管理、経営管理、海外展開といった機能ごとに横断的な管理をおこなう「中小企業支援プラットフォーム」により経営支援をおこなうことで、国内外の優れた食品企業を存続・成長させ、商品・雇用・取引先を守り、地域経済の維持及び発展に貢献してまいりました。

また、食品卸売業界国内売上高第3位を誇る国分グループ本社株式会社と資本業務提携をおこなうなど、当社の事業基盤強化につながる外部パートナーとも積極的に協働しながら、より一層の事業拡大を図っています。

2. ワイエスフーズについて

ワイエスフーズ (<https://www.ys-foods.jp/>) は、北海道茅部郡森町に本社及び工場を構え、主に噴火湾沿岸で漁獲されたホタテの加工を行う企業です。噴火湾地域では最大規模のホタテ加工設備及び保管設備を保有しており、買参権（漁協から直接水産物を購入する権利で、新規で取得することは困難）を持つ漁業協同組合から仕入れたホタテを加工し、主に国内の水産卸売企業や中国の水産加工企業へ販売しています。当社の子会社である株式会社マルキチ（以下、「マルキチ」といいます。）とは、オホーツク沿岸で漁獲されたホタテの仕入や加工受託等の取引関係があります。

傘下には、株式会社マツ水産（以下、「マツ水産」といいます。）、有限会社オガネサン清藤水産（以下、「清藤水産」といいます。）、株式会社ワイエス海商（以下、「ワイエス海商」といいます。）の3社があり、マツ水産は、北海道長万部を拠点とし、厳格な管理が必要とされる対EU及び対米輸出水産食品加工施設の認定を受けた自社工場ではホタテやサケ等の加工を行い、主に国内の大手水産卸売企業を經由してスーパー量販店等へ販売しています。清藤水産は、ホタテの片貝加工（ホタテの貝殻を半分取り除く加工）を行う企業で、片

貝の生産量では国内で圧倒的なシェアを誇り、主に国内の水産卸売企業を経由して飲食店等へ販売しています。ワイエス海商は、ふるさと納税等の通販事業、ちゃっぷ林館（茅部郡森町が所有する温浴施設）の運営事業、同施設内の桜はな（飲食店）の運営事業を行っています。通販事業は、主にグループ会社からカニやイクラ、ホタテ等を仕入、北海道森町の納税返礼品として販売しています。

3. 株式取得の理由

① 海外において需要が増加する日本産ホタテの調達ルートを確認

世界で流通している「ホタテ」は、「主に日本等で生育されるホタテガイ」と「主に中国等で生育されるイタヤガイ」であり、品種が異なります。日本産のホタテガイはサイズが大きく甘みが強く、サイズや味、品質の面で大きな優位性をもっていることから、世界において希少価値の高い食品として認知度が高まっており、近年、欧米及びアジアにおいて需要が増加しています。その証左として農林水産省が公表している「農林水産物輸出入情報・概況」によると、2022年のホタテ輸出額は前年比42.4%増の910億円であり、品目別でみた農林水産物の輸出額は1位となり、日本で最も輸出額の大きい農林水産物となっています。

ワイエスフーズ、マタツ水産、清藤水産の各社は、噴火湾沿岸の漁業協同組合の買参権を所有し、噴火湾沿岸で漁獲される新鮮なホタテの調達が可能です。当社の子会社であるマルキチは、オホーツク海沿岸の漁業協同組合の買参権を所有しており、オホーツク海沿岸で漁獲されるホタテの調達が可能です。ワイエスフーズが当社グループに参画することで、当社グループは、北海道産ホタテの2大産地である噴火湾沿岸とオホーツク海沿岸からホタテを安定的に調達する権利を獲得できることとなります。

② 大手ホタテ加工企業としての確立された地位と高い品質管理能力を持つ生産加工設備

ワイエスフーズグループは、北海道において数少ない大規模なホタテの加工設備、保管設備を保有する企業です。近年、設備投資を行わずに廃業や事業縮小を進める同業他社が多い中、同社は積極的な設備投資を行うことで、道内における大手ホタテ加工企業としての地位を確立してきました。加えて、ワイエスフーズの工場は対中国HACCP認証工場として、マタツ水産の工場は対EU輸出水産食品取扱施設、対米輸出水産食品加工施設として認定を受けるなど、高い品質管理体制を構築しています。

③ 当社グループ企業とのシナジー

ワイエスフーズグループとマルキチが持つリソースとノウハウを共有することで、ホタテ業界における更なるマーケットシェアの拡大と業績向上が期待できます。一例として、噴火湾のホタテは冬～春に最も水揚げされるのに対し、オホーツク海は夏～秋が最漁期であるため、両社の繁忙、閑散期に応じて相互に生産を補完することで、両社工場の稼働率及び生産性を向上することが可能となります。

また、当社グループであり、シンガポールで水産卸売業を行うSin Hin Frozen Food Private Limited（以下、「Sin Hin」といいます。）は、ホタテを主力製品のひとつとして年間約170トン以上購入しており、現地大手スーパー等へEmeraldブランドとして販売を行っています。現在、Sin Hinは、中国の加工企業経由で一部ワイエスフーズのホタテを購入しているため、マルキチを含めた3社間にて仕入ルート及び販路の整理を行うことで、グループ間において安定的な供給と更なる海外販路の強化が可能となると考えています。

なお、中国が日本産水産物の輸入を停止したことにより、ワイエスフーズグループの中国向けの売上高が

減少する等、一時的な業績への影響は考えられますが、世界で評価が高まる日本産ホタテの需要が減少することは考えにくく、中長期的な業績への影響は限定的であると考えています。また、中国の輸入停止によりホタテの相場価格が下落することも考えられますが、ワイエスフーズ及びマルキチは大規模かつ高性能な冷凍保管設備を保有しており、冷凍ホタテの賞味期限は2～3年であることから、市況が改善するまで在庫を維持できる体制が整っています。加えて、当社がワイエスフーズの連結を開始する際、在庫単価を市場価格に基づき適正に評価替えすることで、連結後の損益が悪化しないよう対応することも検討しております。また、日本政府及び東京電力は、本件により損害を被った水産関連企業への補償を表明しており、損害が発生する場合には補償金の受領に向けて手続きを進めてまいります。

当社は、ワイエスフーズをグループ化することで、今後も海外を中心に需要の拡大が見込まれる北海道産ホタテを調達する権利、加工する技術と生産設備、輸出に必要な品質認証を獲得することができ、マルキチとの協業や、シンガポールを中心とした海外販路やネットワークを組み合わせ、ワイエスフーズのさらなる業績拡大を図ることができると考え、株式を取得することにいたしました。

また、ワイエスフーズとマルキチを中核企業とし、北海道の水産及びその他食品企業のグループ化を促進することで、更なるマーケットシェア拡大や設備投資による競争優位性の確立を目指し、北海道における食品事業の拡大に向けて取り組んでまいります。

なお、当社はワイエスフーズの発行済株式70%を取得し、対象会社の代表取締役である坂本拓也氏と専務取締役である坂本佑介氏は、引き続き30%を保有するとともに代表取締役社長、専務取締役を継続いたします。共に協力関係を構築し、シナジー効果を発揮することで、グループの業績向上及び北海道を中心とした日本の食品業界活性化に向けて取り組んでまいります。

なお、本件取得にあたり必要となる資金は、銀行借入により賄う予定としております。

4. 異動する子会社（ワイエスフーズ）の概要

(1)	名 称	株式会社ワイエスフーズ	
(2)	所 在 地	北海道茅部郡森町字砂原西四丁目230番地12	
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役 坂本 拓也	
(4)	事 業 内 容	水産加工製造業（ほたて貝柱、いくら醤油漬、いかそうめん、たこ刺し、つぶわさび等）	
(5)	資 本 金	50百万円	
(6)	設 立 年 月 日	1998年9月	
(7)	大株主及び持株比率	坂本 拓也 50.6%、坂本 佑介 45.4%、自己株式 4.0%	
(8)	上場会社と当該会社との間の関係	資 本 関 係	該当事項はございません。
		人 的 関 係	該当事項はございません。
		取 引 関 係	2022年7月期において、当社の子会社であるマルキチとの間で、原材料の仕入1,360百万円、製品の販売1,144百万円の取引を行っています。
		関連当事者への該当状況	該当事項はございません。

(9) 当該会社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態			
決算期	2020年7月期	2021年7月期	2022年7月期
純 資 産	1,923百万円	2,054百万円	2,857百万円
総 資 産	9,648百万円	10,806百万円	11,291百万円
1株当たり純資産	2,003千円	2,140千円	2,977千円
売 上 高	8,847百万円	12,981百万円	16,865百万円
営 業 利 益	212百万円	729百万円	1,634百万円
経 常 利 益	230百万円	622百万円	1,752百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	146百万円	150百万円	832百万円
1株当たり当期純利益	152千円	157千円	866千円
1株当たり配当金	10千円	20千円	30千円

注1：2023年7月期の経営成績につきましては、現在決算作業を行っている中ではありますが、概ね2022年7月期と同等の売上高及び営業利益となる見込みです。

注2：当該会社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態は、当社が本件取得にかかる買収監査を委託した会計事務所により作成された、株式会社ワイエスフーズ、株式会社マタツ水産、有限会社オガネサン清藤水産、株式会社ワイエス海商の財務数値を連結した数値を記載しております。

5. 株式取得の相手先の概要

(1) 名 称	坂本 拓也		
(2) 住 所	北海道茅部郡		
(3) 上場会社と当該個人との間の関係	資 本 関 係	該当事項はございません。	
	人 的 関 係	該当事項はございません。	
	取 引 関 係	該当事項はございません。	
	関連当事者への該当状況	該当事項はございません。	

(1) 名 称	坂本 佑介		
(2) 住 所	北海道茅部郡		
(3) 上場会社と当該個人との間の関係	資 本 関 係	該当事項はございません。	
	人 的 関 係	該当事項はございません。	
	取 引 関 係	該当事項はございません。	
	関連当事者への該当状況	該当事項はございません。	

6. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	0株 (議決権の数：0個) (議決権所有割合：0%)
---------------	----------------------------------

(2) 取得株式数	672株 (議決権の数：672個)	
(3) 取得価額	株式会社ワイエスフーズの普通株式	6,020百万円
	買収監査費用等（概算額）	40百万円
	合計（概算額）	6,060百万円
	（ご参考）	
	株式会社ワイエスフーズ普通株式100%換算	8,600百万円
(4) 異動後の所有株式数	672株 (議決権の数：672個) (議決権所有割合：70%)	

注1：本件取得にかかる買収監査費用等は、2024年2月期に計上いたしますが、翌期以降は発生いたしません。

注2：当社は、中国の輸入規制を見込んだうえでワイエスフーズの事業計画を作成し、それをもとに株式価値を評価しております。

7. 日程

(1) 取締役会決議日	2023年8月29日
(2) 契約締結日	2023年8月29日
(3) 株式譲渡実行日	2023年10月16日

(注) 本株式取得の実行は、独占禁止法第10条第2項に基づく届出にかかる公正取引委員会審査の結果において、排除措置命令の発令等、株式等取得の実行を妨げる要因が存在しないことが前提となります。

8. 今後の見通し

本件株式取得による2024年2月期以降の連結業績に与える影響につきましては現在精査中であり、開示すべき事項が発生いたしましたら速やかに開示いたします。

なお、当社の連結財務諸表におけるワイエスフーズの期間損益の取り込みは、2024年2月期第4四半期からを予定しております（貸借対照表は2024年2月期第3四半期末から連結予定）。

以上